令和5年度

各学校(園)長様
分校主任様
児童会・生徒会担当者様

公益財団法人　日本ユニセフ協会
ユニセフ学校募金委員会委員長
赤　松　　良　子

第68回ユニセフ学校募金趣意書

食料難がおびやかす わたしたちの未来

平素よりユニセフ学校募金にご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

第二次世界大戦の被害を受け、十分な食べ物も手に入れることのできなかった日本の子どもたちに、ユニセフ(国際連合児童基金)は、1949年からの15年間、粉ミルクや衣類の原料となる原綿、医薬品など、当時の金額で65億円もの支援を行いました。その支援へのお礼の手紙に、子どもたちが添えた大切な10円玉。これが日本におけるユニセフ募金の始まりです。子どもたちのあたたかな思いから始まったユニセフ学校募金は、今年度で第68回を数えます。

近年、世界に広がる気候変動の影響は、国の境に関係なく顕著となり、干ばつや水害など、深刻な自然災害を引き起こしています。また、ウクライナ危機をはじめ多くの国で紛争が続き、たくさんの子どもたちが厳しい生活を強いられているばかりでなく、食料の生産や流通へも大きな影響を与えています。

さまざまな原因から引き起こされている食料難。その矢面に立たされるのも、すでに厳しい状況にある子どもたちや弱い立場にある人びとです。このままでは、いまを生きる私たちだけではなく、未来の世代もおびやかされ、この多様性に満ちた地球が失われるという危機感が高まっています。

2015年に国連で採択された「SDGs(持続可能な開発目標)」は、持続可能な世界を築くために解決が求められる課題を提示し、私たち一人ひとりがその解決の力になることを求めています。不確実な未来に向かう子どもたちが、食料難をはじめ、さまざまな課題に立ち向かい、持続可能な世界を築いていくためには、何よりもいま、子どもたち自身がもって生まれた可能性を十分に伸ばして成長できることが不可欠です。しかし、そのチャンスがすべての子どもたちに届けられているとは言えません。

今年度もユニセフ学校募金では、「すべての子どもに、[　　]を。」と空欄を設け、日本に暮らす子どもたちに問いかけています。この問いを、主体的で対話的な学びの糸口としていただき、空欄を埋める言葉を考える過程で、子どもたちが、自分自身と世界の仲間たちの持続可能な未来像をえがき、課題を見つけて理解を深め、その解決の力になろうという意欲をもてるような教育に結び付けていただきたいと願っています。

ユニセフ学校募金が、世界の仲間たちを支えると同時に、持続可能な社会の創り手を育む大切な学びの機会となるよう、皆さまのご理解とご支援をお願い申し上げます。

unicef | for every child

FSC ミックス 紙 | 責任ある森林管理を支えています FSC® C007718